

# 窓

「窓」に寄せる思い  
（教育に寄せる心を開く小さな「窓」）  
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

## 福島県教育センター



### 平成19年度 教育センターの研究

教育センターでは、学校教育の充実と発展を目指して、本県の教育課題を的確に把握するとともに学校に視点を置いた実践的な研究を行い、改善の方向を提案、提供しています。平成19年度の研究を御紹介します。

#### 企画振興チーム eラーニングの特性を生かしたこれからの教員研修の在り方

「より多くの先生方から授業に対するアドバイスをもらいたい。」とか、「校外での研修もしたいのだが、なかなか都合がつかない。」と思ったことはありませんか。

県内の普通教室におけるLAN整備率及び高速回線接続率は全国平均を上回っており、インフラ整備が着実に進んでいます。この現状から、校内研修や教育センターの研修を行うに当たり、eラーニングを活用して研修効果を向上させるための研究をしています。

#### 研究調査チーム 授業改善の日常化を図る校内研修～協働意識を生かした授業研究の取組みを通して～

「授業研究会における協議が日常の授業改善に結び付かない。」などの悩みを抱えてはいませんか。

そのような学校の悩み解決に向けて、研究協力校における具体的な取組みを通し、授業改善の日常化を図る授業研究の在り方を研究しています。

#### OJTツールを用いた教師力向上のための研修の工夫

「研修がより効果的にならないか」と思ったことはないでしょうか。

意味のある研修とするためには、自己の振り返りに基づくことが必要であると考えます。研修の充実を図る手立ての一つとして、OJTツールを開発しました。このツールを活用することで、研修が一人一人の課題意識に基づいた組織的な取組みとなるような研究をしています。

#### 教育相談チーム 予防・開発的教育相談の推進に関する研究～体験学習型の研修モデルを通して～

不登校やいじめ、非行等の問題の対応に追われてはいませんか。

すべての教師がすべての児童生徒を対象にした「予防・開発的教育相談」（問題行動を未然に予防するとともに、児童生徒一人一人が能力や個性を伸ばし、社会性を高め、自己実現を目指すための指導援助）を地区や学校全体で推進する具体的な方策について研究しています。

その他、教科教育チーム、教科外教育チーム、情報教育チームにおいても、研修の充実を目指した研究を推進しています。

また、今年度も10名の長期研究員が各自の研究に取り組んでいます。なお、研究内容については、所報ふくしま「窓」Web版 (<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>) に掲載いたします。御覧ください。



## &lt;第3回「日常的な授業改善に向けて」&gt;

研究調査チーム

本連載の第1回は、「教材観」「児童観・生徒観」「指導観」の「三つの観」の見直しから課題を明らかにし、その解決に向けた一般的な授業研究の進め方を紹介しました。第2回は、授業分析の方法や授業の日常的な振り返りの大切さについて述べてきました。これらを基に第3回では、日常的な授業の振り返りから導き出したさらなる改善策を次のステップの授業構想に生かし、授業改善を進めていくための方策について考えていきます。

## 日常的な授業改善を図るために

上で述べた「三つの観」の視点は授業実践の上でも、また、授業を振り返る上でも、常に意識しておきたい視点です。学習が思うように進まない、子どもの思考が深まらないなどと悩んだときには、この「三つの観」のいずれかのとらえ方に課題があることが多いようです。この課題の解決を図ることが「目指す授業のイメージ」に近づくことであり、授業改善を進めていくことにほかなりません。そのための方策を紹介します。

## 1 振り返りのための資料を収集する。

- 授業研究で課題となったことを視点に日々の授業の記録を取る。

- 週指導計画、教材研究ノートの活用

- 毎時の板書等の写真を撮る。等

## 2 授業改善のための課題を見いだす。

- 同僚との情報交換を進める。

- 一人で悩まず、同学年や同教科、研修主任、身近な同僚、先輩、管理職等々に声をかけて、多くのアドバイスを聞き、「これだ」と思える方向を見いだしていきましょう。

- 多様な情報を収集する。

- 教育センターの活用（どなたでも活用できます。）

教育センター内「カリキュラムセンター」では、小・中・

高等学校の教科書や県内公立学校の教育課程が閲覧できます。また、全国の研究・教育機関の研究紀要や教育図書、教育雑誌等も活用できます。（資料検索：[http://www.center.fks.ed.jp/kensaku\\_8/index.htm](http://www.center.fks.ed.jp/kensaku_8/index.htm)）

- 図書館の活用（どなたでも活用できます。）

福島大学附属図書館蔵書検索（OPAC）（<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>）

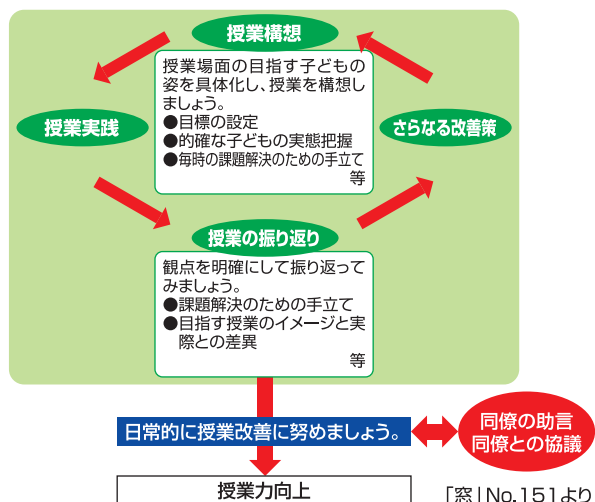
福島県立図書館横断検索システム（[http://www.cross.library.fks.ed.jp/fukushima\\_top.html](http://www.cross.library.fks.ed.jp/fukushima_top.html)）

- 自主的研究団体・サークルの活用

## 3 新たな授業構想をデザインする。

授業を振り返り、自分の目指す授業のイメージと実際の差異に気付き、改善すべき課題があれば、実行可能な手立てから、少しずつであっても継続して実践していくことが大切です。

上記「1」「2」で述べたことを実践に生かしていきましょう。その際に大切なのは、新たな授業構想をデザインすることです。やみくもに実践するのではなく、「何が大切なのか」「どんな取組みをしようとしているのか」等、しっかり先を見据えて、その構想を具体的に用紙等に書き込んでいっていきましょう。



## 授業力向上を目指して

教師が目指す授業のイメージを実現することは、とても難しいことなのかもしれません。例えば、子どもからの活発な反応はあるが、それが目指す授業のイメージと合致していないということもあります。「まだまだの自分」に気付き、理想に「近づきたい」と強く願うことなしには、前進はあり得ないのではないのでしょうか。

未来を担う福島の子どもたちのために、私たち教師がスクラムを組んで、日々の授業改善を図っていくことが「授業力向上」につながるはず。各学校の校内研修における授業研究を、教師が多面的、客観的に授業を振り返る視点を持つ契機とし、各自が授業実践とその記録を積み重ねるとともに、同僚との情報交換を通して、授業力向上を目指していきましょう。

### 1 はじめに .....

次に挙げるのは、基本研修における研修者の感想記録の一つです。

「研修を通して、教材研究をより深めることが重要であると気付いた。授業改善の第一歩は、何よりも教材分析だと思った。」(経験者研修Ⅱから)

このように、研修を通して、授業改善に関する重要な視点に気付かれる先生方が多いことを踏まえ、今回は「授業改善」に焦点を当て、さらにその「視点」について考えてみます。

### 2 授業改善の視点を持つことの大切さ .....

教科教育チームは、「授業における指導力の向上」を目指し、より具体的で実践的な、すぐに授業に生かせる研修の実施に努めています。研修講座では、各教科の担当指導主事が、さまざまな形態(協議、演習、講義、模擬授業等)を通して、「授業改善の視点」について学ぶきっかけづくりをしています。

具体的には、

- 県内の児童生徒の学力の実態分析等の紹介  
➡ 児童生徒の実態把握
- 身近な教材や新しい教材の開発・活用事例等の提示  
➡ 教材開発と教材研究
- 模擬授業を中心とした演習及び協議  
➡ 目標の明確化、評価規準の明確化、指示・発問の工夫



(小学校経験者研修Ⅱ図画工作での様子)

などが挙げられます。

各学校では、本県の施策に従い、「確かな学力」を児童生徒に身に付けさせるためのより具体的な取組みがなされていると思います(その中には、小・中・高等学校の学習内容・方法の接続の問題、「わかる・できる授業」の設計・実施・評価などが含まれます。)。また、時間的な制約をうまく克服しながら、校内での研修の充実が図られていると思います。

そういった中においては、先生方一人一人が「授業の質を変える。」「新たな視点から授業を見直す。」ことを常に念頭におくことが必要です。

また、日常的に授業改善に向けた実践を重ねることが指導者の腕を磨くことにつながります。

### 3 講座から見える授業改善の視点(提案) .....

今年度実施された研修講座の研修者感想記録から、各教科共通の課題がいくつか見られました。以下のような視点を持ちながら、校内での研修と並行して、日頃から継続的に授業改善に取り組むことを提案します。積極的に自己課題を見だし、研究部会、学年部会、教科部会等での同僚との情報交換を通じてアイデアや助言を得ながら、日常的に授業改善に取り組んでいただきたいと思います。

- 教材研究の重要性を再認識し、「この教材を通して児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのか」を常に意識しながら毎時間の課題設定を的確に行う。(教材分析)
- 授業の終了後に振り返りの時間を短時間でも確保し、各教科の本質に迫る課題設定や発問の在り方等について見直す。(振り返りの時間の確保)
- 授業改善の第一歩は、目の前の児童生徒の学力を何とかしようという使命感や教師自身が専門性を高めるための日々の研鑽を積み重ねていくことです。(教科指導における専門性の向上)

### 4 おわりに .....

教科ごとに、授業改善について寄せられた研修者の感想記録を所報ふくしま「窓」Web版(<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>)に掲載しました。ぜひ、御覧ください。



# 平成20年度 教育センター専門研修開設予定講座決定

平成20年度教育センター専門研修の開設予定講座が決定しました。

例年、配付しておりました専門研修講座パンフレット（予告版）は、福島県教育センターWebページ（<http://www.center.fks.ed.jp>）への掲載となりました。先生方のニーズにおこたえできるような講座を取りそろえてお待ちしております。

専門研修は、経験者研修Ⅱの「選択研修」としても選択できますので、研修計画作成の参考にしてください。

なお、同パンフレット（正規版）は、印刷物として平成20年3月に送付する予定です。専門研修は、次年度より一括募集となります。一部推薦による講座がありますが、基本的に教育センターの専門研修は希望制です。学校ごとに研修講座案内（3月配付予定）に従ってお申し込みください。

## —実践に役立つ教育資料のご紹介—

### 創造的な話し合い活動を重視し、数学的な考え方や表現力を育む算数・数学教育の研究

北海道教育大学紀要第58巻 第1号（2007年8月）

「創造的な話し合い活動」を、①学習集団の一人一人に共通の目標がある。②学習集団の一人一人が平等に参加し、責任がある。③分化、対立した考えを合意するための討議がある。④自他の話し合いへの貢献を評価し合う場がある。という4点でとらえています。それらの視点に基づく小・中学校での実践例から、自ら問うことや能動的に話し合いに参加することを習慣付ける指導と児童生徒が、そのような活動を生み出す課題を設定する授業を継続的に行っていくことが大切と結論付けています。

### 京の国語力向上のための指導資料

京都府教育委員会（2007年3月）

確かな学力の基盤になる力であり、「生きる力」にもつながるものとして国語力をとらえています。国語力を向上させるためには、中核となる国語科のほか、各教科及び総合的な学習の時間での指導を相互に関連させ、系統的・段階的な指導を進める必要があります。そこで、各教科及び総合的な学習の時間等において国語力を総合的に高めるために、身に付けさせたい国語力とそれを育成するための学習活動をマトリクスに表し、それに基づく指導の在り方を提案しています。国語力育成のための特別な単元を設定するのではなく、各教科等での言語活動に着目して、関連付けて指導できるようにしていることが特徴です。

\* その他、教育センターで受け入れた研究紀要や教育資料から五つをWeb所報ふくしま「窓」で紹介しております。

#### 福島県

#### 「情報教育の実態等に関する調査」 結果まとまる

情報教育チームでは県内の公立学校における情報教育の実態等を把握するため、毎年、調査を実施しています。今年度は、新たに「個人情報保護」についても調査しました。

結果がまとまりましたので、一部を所報ふくしま「窓」Web版に掲載しました。御覧ください。

調査への御協力、ありがとうございました。

#### 講座紹介

平成19年度下半期に実施された研修の中から、五つの研修についての講座紹介を所報ふくしま「窓」Web版に掲載しました。  
ぜひ、御覧ください。

編集発行／福島県教育センター  
〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16  
TEL.024-553-3141 FAX.024-554-1588  
<http://www.center.fks.ed.jp/>

印刷所／株式会社阿部紙工  
〒960-2195 福島市庄野字柿場1-11  
TEL.024-593-5111 FAX.024-593-5740

   
この冊子は、古紙配合率100%白色度82%再生紙を使用し、環境にやさしい大豆インキを使用しています。